

# 人権さんだ

2 月号

令和4年(2022)

No.515

じんけん  
人権と共生社会を考える市民のつどい  
～清水 展人さんの人権講演から～

《問い合わせ》  
福祉共生部共生社会推進室人権推進課  
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294  
E-mail : jinken\_u@city.sanda.lg.jp

## 【プログラム】

- ◇人権標語・ポスター・優秀賞表彰
- ◇ラブピース4コマまんが特選表彰
- ◇小・中・高校生による人権作文発表
- ◇人権講演

## 【動画配信期間】

12月4日～19日(期間限定配信、  
動画配信は終了しました。)

## 【テーマ】

女らしく、男らしくよりも、自分らしく生きる  
～多様な性のあり方について～



しみず ひろと  
清水 展人 さん (非営利型一般社団法人日本LGBT協会代表理事)

昨年12月に実施された「人権と共生社会を考える市民のつどい」の人権講演では、「女らしく、男らしくよりも、自分らしく生きる」多様な性のあり方について、「」をテーマに、清水展人さん(日本LGBT協会代表理事)にお話ししていただきました。今号ではその講演の様子をお伝えします。

## ※表1

- (1) 性的指向 …自分の恋愛感情や性的な興味関心がどの性別に向いているか、ということです。
- (2) 性自認 …自分の性をどう認識しているかということです。非常にグラデーションの部分が多く、「男性」か「女性」かどちらの性が揺れ動いたり迷ったりする人もあります。  
最近では「性的指向(好きになる性)」「性自認(心の性)」の英語「Sexual Orientation」「Gender Identity」の頭文字をとって、「SOGI(ソジ)」という言い方が使われています。
- (3) 性表現 …服装・髪型・しぐさ・喋り方などの外部的な表現のことを性表現といいます。
- (4) 性的特徴 …私でいうと性的特徴は元々女性の身体で生まれ、現在は自分の事を非常に中性的であると理解しています。

三田市のみなさん、こんにちは。  
清水展人です。  
まず、性の多様性を理解する指標として左記のように4つの構成要素があると言われています。  
(※表1)

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 性的あり方はグラデーション

私たちのことを性的マイノリティ（性的少数者）と言ったり、LGBTという言葉を代表的に使うこともあります。（表2）

※表2

<b>L</b>	レズビアン	（女性同性愛者）
<b>G</b>	ゲイ	（男性同性愛者）
<b>B</b>	バイセクシャル	（両性愛者）
<b>T</b>	トランスジェンダー	生まれた時に割り当てられた性別に囚われない性の在り方を持つ人のことであり私もトランスジェンダーのひとりです。
LGBT以外にも「LGBTs」とか「LGBTQIA」という言い方もあります。		
<b>Q</b>	クエスチョニング	自分自身の性について揺らいでいたり迷っている状態の人です。

## 性的マイノリティはあなたの身近な存在

性的マイノリティの人たちは全体の8%から10%（12・5人にひとり程度）いると言われています。これは学校のクラスの中に2〜3人の当事者がいるかもしれないと

## 近年の法的動向など

いうことです。私たちのそばには、様々なセクシュアリティを持った人がいるということが大切です。

### 性同一性障害特例法（2004年施行）

要件を満たすものは、戸籍上の性別を変更できるようになりました。

### 子の法的立場 2013年12月、最高裁は、第3者の精子提供により子どもを持った場合、戸籍上、子どもとして認められるという判決を示しました。私は15年前に戸籍を男性に変更し、2児の子どもの父となっています。

### パートナーシップ宣言 法的根拠はありませんが、自治体単位でパートナーとして認める制度です。2021年3月時点で78の自治体が導入しています。

### ファミリーシップ制度 一緒に住むパートナーやその子どもを家族として認める制度で、すでにいくつかの自治体が導入しています。

### 同性婚 現在、同性婚は認められていませんが、認められないの

は違憲だという判決もあり、今後、変わっていくことを期待します。

### 学校教育 性的マイノリティの子どもたちは、小学校低学年の頃から悩みを誰にも打ち明けられず、中高生の時期にいたるまで不安を持ち続けていることがあり、自殺を考えるケースさえあります。文部科学省は、こうした当事者の話を教育の場でしっかりと受け止める必要性があるとし、「自殺総合対策大綱」（平成24年）を踏まえて、学校の先生たちに適切な理解を求めました。

文部科学省は性的マイノリティの子どもに対して配慮するように全国の学校に通知し、現在、学校教育の中でLGBTの問題を扱うようになりました。自分のことを理解されるかどうか不安な人に、学校が理解しようとしているというサインを送ることが大切だからです。子どもたちに寄り添い、社会を変えていくことは大人の責任であると考えます。

## 私の体験から

私は兵庫県で3姉妹の長女とし



## 小学生のころ

て誕生しました。幼稚園の頃からズボンを履き、先生から「おままごとしない？」と言われても外で走り回ることを好んでいました。卒園式・ピアノの発表会などは親や祖母に言われ仕方なくスカート履いていましたが、嫌で仕方ありませんでした。幼い頃から違和感がずっとありました。

小学校ではズボンやTシャツを着ていましたが、ある時男の子に「男みたい」と言われ、小学校2年から高学年まで、いじめられるようになりまし。学校に行くことが怖くなりました。

ある時、担任の先生が「この学校にサッカー部ができます。男の子の中でサッカー部に入りたい人はいますか？」と聞きました。私はサッカーがしたかったけど、勇気を出して伝えることができませんでした。先生はサッカーや野球は男の子のスポーツと思いますが、大人は固定概念による発信が、子どもが本当にやりたいことを伝えることすらできなくさせてしまうのです。



## 思春期に入り

中学進学時、私はスカートを履く事に抵抗がありました。が、「自分が我慢するからいい」と両親に話して学校に相談することはありませんでした。不安な気持ちのまま中学校へ進学しました。身体の変化にもついていけず、自分がいないものにされている気持ちになり、女性を好きになる自分を認められない感情があり、自尊心は低くなりました。

中学3年生の頃、私はもっと社会が求めるような女性にならないければならないとの思いが芽生え、高校生になるとルーズソックスを履き男性ともお付き合いをしました。見た目は女の子になりました。中学校時代は陸上部に入り駅伝で活躍し、生徒会にも所属していたような活発な生徒でした。しかし、自分の気持ちを押し殺して女の子として行動していくうちに心が苦しくなり、いつの間にか部活も退部し家に引きこもるようになりました。自分の存在意義とか生きていく意味を理解できず、私はいなくていいんだと社会から言われている気持ちになり、自殺を考えるようになりました。

そのうち、図書館に通って「スカートをはいいた少年こうして私はボクになった」という本と出会ったり、「3年B組金八先生」というドラマにトランスジェンダーの生徒が登場するのを見て、そんな生き方もあるんだと初めて知りました。自分らしく生きていきたいと考え、スカートを捨て化粧道具を捨て、性表現を自分らしくすることで楽になりました。

## 自分らしく生きていくために

将来、子どもたちに夢や希望を与えられる大人になりたいと考え、武庫川女子大学に進学して教員を目指すことになりました。そこで、信頼できる友人に勇気を出して初めてカミングアウトしました。友人たちは泣きながら「私たちが信頼して告白してくれて本当にありがとう」といって抱きしめてくれました。



その友人たちの後押しで両親にカミングアウトしましたが、両親も不安だったと思います。「性同一性障害なんてどうやって生きていくんだ」と言われ辛くなりました。カミングアウトした後、家の中に

居場所がなくなって家出したことでもあります。母親もどうしていいかわからなくなり精神的に参ってしまいました。最終的に両親も理解をしてくれ、病院へ一緒に行ってくれました。

病院で「性同一性障害」と診断されて治療が始まりました。身体の変化もあり生きづらくなっていました。トイレですらどちらに入っているかわからなくなりました。

就職する際、名前は「ヒロコ」なんだからという親のすすめで交通指導員のお姉さんとして働きました。とても素敵な職業ではありましたが、身体の違和感がありました。

21歳の時に、両親に付き添ってもらい海外で手術をしました。帰国後、職場でカミングアウトすることになりました。交通指導員のお姉さんの仕事をしていたわけですが、上司と相談し、退職して新しいところでトランスジェンダーとして働くことにしました。

戸籍訂正後、男性として働きたかったのですが、女子大卒だったので、「あなたみたいな人をどう扱っていいかわからない」「どう配慮していいかわからない」と言われ続けました。法律ができて

## 令和3年度 人権標語・ポスター受賞作品



● 多様性  
個性がキラリ  
光りだす  
あかしあ台小PTA  
有井 秀明さん

けやき台小学校6年  
西村 咲彩さん

## 人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約）

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）  
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談（予約）

TEL 559-5148 FAX 562-1294  
《次回相談日》2月24日（木）13時～16時

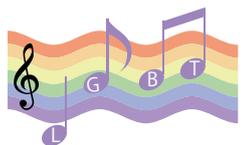
「すてきなまち」



富士小学校 5年  
波多野 七海 さん

社会に理解がなければ仕事に就くことすらできないと感じました。  
求人雑誌で片っ端から電話をし、ある会社で置職人として再出発しました。その会社の上司は「あなたが性同一性障害ということ打ち明けてやりたい仕事に就けないと言うことは、本来はおかしいことなんだ」と言ってくれました。  
その言葉に後押しされ、人の精神面のサポートをしたいという思いから、男子学生として医療専門学校へ社会人入学しました。若い学生に負けられないという気持ちで休みを返上して勉強し、国家資格を取得、精神科へ勤務し、様々な患者さんのサポートをすることになりました。その頃、当時の友人たちや現在妻であるパートナーに、女性だったことをカミングアウトしました。友人たちも彼女も受け入れてくれました。

5年のお付き合いの後、結婚を決心しましたが、妻との結婚の際、親族から結婚を反対されました。しかし、反対していた親族と直接話をすると、親族は自分に中偏見があった、申し訳ないと、結婚することを受け入れてくれました。  
結婚後、新しい家族を持ちたいという夢を持ち、第3者から精子の提供を受けAID（人工授精）で子どもを授かりました。自分の幸せをあきらめずに生きてきたからパートナーと出会い、2児の父となりました。  
人はこうあるべきと決めつけず、それぞれの生き方を地域社会・学校・企業で尊重していくことが大切です。そのことが誰もが生きやすい社会を作っていくのです。



レインボーステッカー協力店・事業所募集

性的マイノリティの人たちへの理解者を示すレインボーステッカーを無償配布します。設置にご協力いただける店舗・事業所は市人権推進課までご連絡ください。性的マイノリティの人たちが「ここでは安心できる」と思える居場所づくりにご協力をお願いします。  
(詳細は市HPもしくは下記QRコードを読み取ってご覧ください。)



三田市パートナーシップ宣誓制度  
申し込み方法 三田市ホームページ  
(<https://www.city.sanda.lg.jp/jinken/pa-tona-sippu.html>)  
または下記QRコードを読み取って御覧ください。



編集後記  
最近、性の多様性を描いたドラマや映画が増えていきます。そこでも「人はこうあるべきと決めつけずに生きる」ことが描かれています。私たちが多様性を認め合う社会を考えるうえで大切なことだと感じました。

「人権さんだ」編集委員の募集！

「人権さんだ」の編集会議に参加してみませんか。いろいろな角度から人権について考え、話し合いながら、紙面を作成していきます。「三田市を、全ての人が幸せに暮らせるまちにしたい」という思いを持つみなさんをお待ちしています！  
【対象】市内に在住・在勤・在学の人  
【定員】数名（応募多数の場合、書類選考）  
【任期】1年（令和5年3月まで、報酬あり）  
【会議】5月～3月まで、月1回（平日2時間程度）  
【応募方法】3月1日（火）～30日（水）に、住所、名前、電話番号、年齢、応募する理由及び人権に関する活動履歴を記入し、人権推進課へ郵送、FAX、または電子メールで応募してください。

市民啓発講座のお知らせ

多文化共生と人権

【日時】令和4年3月13日（日） 14時～15時30分  
【講師】寿賀 素子さん  
(三田市国際交流協会副会長、三田市人権を考える会副会長)  
【場所】まちづくり協働センター（講座室）  
【定員】30人  
【内容】外国人も日本人もみんなが住みやすいまちについて一緒に考えましょう。

(問合わせ先) 人権推進課  
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294  
E-mail : jinken\_u@city.sanda.lg.jp